参考資料４

長期ビジョン審議会
第２回総会（R3.2.22）

兵庫県将来構想試案

兵庫県将来構想研究会

２０２１．２

HYOGO VISION 2050

試案の構成

Ⅰ 策定趣旨 p.2

○ 研究会の検討成果として本試案を提示。試案をたたき台に、新ビジョン案の作成に着手
○ 試案のポイントと留意事項を記載

Ⅱ 大潮流 p.5

○ 2050年の兵庫を考える上で押さえておく必要がある社会潮流を６点で整理

Ⅲ 新ビジョンの方向性 p.22

○ 研究会での議論と県民との幅広い意見交換の結果に基づき、６つの柱を提示

Ⅳ 未来シナリオ p.30

○ 新ビジョンの方向性である６つの柱に沿った未来社会のイメージを未来シナリオとして提示

Ⅴ 結び p.74

○ 試案はあくまでたたき台であることと、ビジョン実現の仕掛けづくりの必要性を強調

Ⅰ 策定趣旨

1 将来構想試案の位置づけ

兵庫県将来構想研究会による2050年を展望した兵庫県の将来構想に関する一つの試案として、
これまでの検討成果を取りまとめたものである。
兵庫県は、この試案をたたき台として、新全県ビジョン案の作成に着手する。
新地域ビジョンの検討では、この試案が県全域を意識した内容となっていることに留意し、
各地域の特性に合わせて特色化や深掘りを行うことが望ましい。

新ビジョン検討の背景

・現行ビジョンの当初策定から20年が経過
・この間に兵庫を取り巻く環境は大きく変化
・こうした変化も踏まえて、進む道を県民の皆様と共に改めて考えたい

展望年次

一世代後の概ね30年後の2050年を「展望年次」とする。

《現行ビジョンの展望年次》
21世紀兵庫長期ビジョン（2001年 2月策定）→ 2030年頃
〃 （2011年12月改訂）→ 2040年頃

将来構想研究会（2019～20年度）

・人口減少・偏在化、県民の価値観の変化、科学技術の進展等の社会潮流の調査研究
・新全県ビジョンのたたき台となる将来構想試案の作成

検討経過 …会議を計14回開催
1回（検討方針）
2～3回（人口動態：将来推計人口等）
4～5回（社会潮流 俯瞰：AI未来予測等）
6～12回（社会潮流 テーマ別検討）
13～14回（取りまとめ）

委員氏名	所属・役職
阿部 真大	甲南大学文学部教授
石川 路子	甲南大学経済学部教授
大平 和弘	兵庫県立大学自然・環境科学研究所講師
織田澤利守	神戸大学大学院工学研究科准教授
加藤 恵正（座長）	兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授
笹嶋 宗彦（座長代理）	兵庫県立大学社会情報科学部准教授
永田 夏来	兵庫教育大学大学院学校教育研究科准教授
中塚 雅也	神戸大学大学院農学研究科准教授
服部 泰宏	神戸大学大学院経営学研究科准教授

※上記委員の他、検討テーマに応じてゲストスピーカーを招聘

2 将来構想試案のポイント

新全県ビジョンを検討する際の素材となるよう、以下の点を意識して取りまとめた。

①多様なシナリオを提示
めざす将来像を今後県民とともに描いていく上で、様々な未来社会のイメージを喚起できるよう、多様な未来シナリオを提示すること。

②大胆なシナリオを提示
新しい視点と発想で未来をデザインしていくため、従来の延長線上ではなく、できるだけ今とは異なる大胆なシナリオを示すこと。

③地域特性を踏まえたシナリオを提示
「日本の縮図」と言われる兵庫県の将来構想であることから、大都市から地方都市、多自然地域まで多様な地域の特性を踏まえた幅広いシナリオを提示すること。

3 留意事項

これまでの研究会と、県民との意見交換の成果から導き出した試案であることから、
以下の点に留意する必要がある。

①網羅性はない
現在の県の施策領域を必ずしも網羅する作りとはなっていないこと。

②あくまで出発点
この試案を一つの出発点に、より望ましいシナリオを引き続き議論すべきこと。

③地域ビジョンでは地域の独自性を追求
地域ビジョンは、全県ビジョンを共通の土台にしながら、地域の強みや課題に重点を置いた方向性を示すべきである。新地域ビジョンの検討にあたっては、この試案を適宜参照しつつも、その地域ならではの将来像と、その実現に向けた具体的な取組の方向性を打ち出すことに力を注ぐこと。

Ⅱ 大潮流

2050年の兵庫を考える上で特に押さえておく必要があると考えられる社会潮流を大きく6点で整理した。こうした潮流を踏まえた上で、新ビジョンの検討を進める必要がある。

1　人口減少･超高齢化

悲観論に偏ることなく、人口が減っても高齢化が進んでも豊かさを保つ兵庫をどう考えるか。

（1）総人口の減少

（2）人口の偏在化

（3）超高齢化

2　自然の脅威

地球環境の変化に伴う危機を回避するための行動の道筋を示すビジョンが求められているのではないか。

（1）気候変動

（2）災害の世紀

3　テクノロジーの進化

県民の幸せや地域の発展につながる形でどのようにテクノロジーを取り込んでいくか。

（1）未来のテクノロジー

（2）データの最大活用

4　世界の成長と一体化

世界と共に歩む兵庫をめざして、どのようにして世界に開かれた地域をつくるか。

（1）大きくなる世界

（2）一つになる世界

5　経済構造の変容

デジタル化が進む中、社会の歪みを生じさせない経済社会のあり方をどのように構想するか。

（1）デジタル化の進展

（2）資本主義のゆくえ

6　価値観と行動の変化

広がりつつある新たな価値観や行動を兵庫づくりにどうつなげていくか。

（1）サステナブル志向の台頭

（2）所有から利用へ

（3）固定から流動へ

（4）効率・画一から個性・多様性へ

（5）ローカル志向の胎動

Ⅲ　新ビジョンの方向性　（2）６つの柱

社会変化の潮流からは、新たな価値観を持った人々が、進化したテクノロジーを駆使し、活躍の舞台を広げ、活発に活動する未来を思い描くことができる。新ビジョンでは、そのような未来を、めざす兵庫像として描き出していく必要がある。

本試案では、社会変化の潮流に対する我々なりの捉え方と、研究会での議論、県民との幅広い意見交換の結果に基づき、未来へ歩む兵庫が大切にすべき基本姿勢を**次の６つの柱**に整理した。

また、それぞれの柱に沿った未来社会のイメージを「未来シナリオ」としてできる限り大胆に描いた。

1 個性の追求	すべての県民が自立し、自分らしい生き方を選べる社会をつくる。その選択を兵庫五国の多様性が支える。多様な風土に多彩な文化が根付く五つの国の個性に磨きがかかる。画一・標準から脱却し、個性や「らしさ」を発揮する兵庫をめざす。
2 開放性の徹底	明治の神戸開港以来、多様な文化を受け入れてきた兵庫だからこそ、年齢、性別をはじめ人の意識に内在する壁を徹底して取り払い、どこよりも開かれた地域をつくる。
3 つながりの再生	阪神・淡路大震災を経験した兵庫だからこそ、人と人との絆を大事にする。弱い立場にある人々を取り残さない、多様なコミュニティが活発に活動する兵庫をめざす。
4 集中から分散へ	今般のコロナ禍は人口が密集する都市の脆弱性を炙り出した。都市と多自然地域が共存する強みを活かし、どんな場所でも望む生き方、働き方ができる兵庫をつくる。
5 美の創生	地域を大切に思い、より良いものに変えていこうと行動する住民の力、各地に残る美しい風景、培ってきた多彩な芸術文化。その蓄積を生かして新しい美と文化を生み出す地域、生活に溶け込む文化が人生に彩りを与える兵庫をめざす。
6 次代への責任	次代により良い社会を引き継ぐ責任を果たす。自立する人づくり、気候変動への対応、安全な県土づくりなどを積み重ね、地域を守り、未来へつなぐ。

Ⅳ　未来シナリオ

個性の追求

1 自分らしさを追求できる社会
2 活力を支える健康
3 あふれる学びの場
4 沸き立つ起業
5 磨かれる五国の個性
6 ものづくり産業の革新
7 進化する御食国

開放性の徹底

8 多文化が入り混じる兵庫
9 世界に貢献する兵庫人
10 なくなるジェンダーバイアス
11 活躍するシニア
12 ユニバーサルな地域
13 バーチャルが拓く可能性

つながりの再生

14 つながりを広げ、深める家族
15 楽しく子育てできる社会
16 最期まで安心して暮らせる社会
17 広がる縁
18 スポーツが育むつながり
19 進む地域経済循環
20 自分たちでつくる地域

集中から分散へ

21 都市と田舎の共生
22 自然と共にある暮らし
23 自由になる働き方
24 軽くなる住まい
25 快適になる移動
26 進化する自治体

美の創生

27 ともに創るまち
28 引き継がれる風景
29 甦る豊かな自然
30 息づく芸術文化
31 広がる生活文化産業

次代への責任

32 人に投資する社会
33 開かれた学校
34 未知の領域への挑戦
35 地域のエネルギー自立
36 カーボンニュートラルな暮らし
37 危機に強い地域
38 安全を支える強靭な基盤
39 受け継がれる地域

Ⅴ　結び

1　たたき台としての将来構想試案

この試案は、兵庫のめざす将来像について検討を深めていくための**たたき台**として作成したものである。ここに示した未来の姿に物足りなさを覚える人もいれば、思いがけない変化に戸惑いを覚える人もいるだろう。今後本格化する新ビジョン検討の**開かれたプロセス**の中で、この試案を一つの**足がかり**に、**より良い未来を描き出すための議論**が積み重ねられることを期待する。

2　新ビジョンの推進にあたっての期待

ビジョンは作るだけでは意味がない。ビジョンが描く未来を羅針盤として、一人ひとりの県民が考え、行動していく。兵庫の新ビジョンはその**プロセス**を大事にするものであってほしい。

具体的には、新たな活動を生む仕掛けづくりへの期待である。新ビジョン実現に向けた挑戦が次々と生まれる**動的なビジョン**となるよう、県民の主体的な取組を促し、支える仕組みをつくっていくことがこの先大切になるだろう。

もう一つは、県民に伝える工夫と努力である。新ビジョンが兵庫づくりの羅針盤となるには、子どもたちをはじめすべての県民に**伝わる内容**でなければならない。新ビジョンの策定プロセスに一層の工夫が求められるし、策定後も**伝えていく努力**は欠かせない。一方で、新ビジョンで描く未来像そのものに共感できない人もいるだろう。言うまでもなく、すべての人に一律に変化を迫るものであってはならない。**個性や多様性を尊ぶ**ことこそが兵庫が最も大切にする理念であってほしい。